

ダラスのワーキング女子ヘアールを！

〜JCWのマンスリーメッセージ〜

安全対策してますか？

2018年から活動を開始した当団体JCWは、現在ダラスとデンバーの2拠点で活動しています。先日私はJCWのスタッフ代表として、在デンバー日本国総領事館が主催する安全対策連絡協議会に参加しました。内容は主に最近の米国の治安情勢や犯罪の種類、具体的な犯罪事例や対策などです。米国内で発生している特殊詐欺についても説明があり、また海外に住む日本人の孤独や孤立などメンタルヘルス関係の情報も頂きました。この会議で学んだ内容が非常に充実していて、ぜひ皆さんにもお伝えしたいと思うので、今月は趣向を変えて情報シェアに置きかけた記事にしたいと思います。これらの情報は領事館HPからもアクセスできますので、興味ある方はご覧下さい。

最近の米国での犯罪は大きく分けて2種類あるそうです。一つ目が暴力犯罪(殺人、強姦、加重暴行、強盗など)で、もう一つが財産犯罪(窃盗、侵入盗、自動車盗)とのこと。どれも物騒な響きですね。犯罪件数はコロナ禍の2022年に増加傾向にありましたが、2023年には減少しつつあるとのこと。でも安心はできません。年末にかけてのホリデーシーズンは人が多くなるので注意が必要です。特に銃撃事件などは、人の多く集まる場所やイベント内で発生する傾向にあるので、出かける際は周囲の状況にアンテナを張っておくようにしましょう。

ある国際送金詐欺の被害にあった邦人の実例を1件ご紹介します(会議資料から抜粋)。まず銀行や会社の職員と名乗る者から電話がかかってきます。そこで「あなたのクレジットカードが犯罪に使用されている。このままでは口座は凍結され、最悪あなたは刑務所行きとなる」と脅され、潔白を晴らすポリスレポートを取得するため、警察に電話を転送しますと告げられます。ここで要注意なのが電話の「転送」です。1つ自身で警察へ電話して

下さいというのではなく、先方が転送するんです。その後、電話の転送先に出た警察官を名乗る者から実在する警察署のホームページを検索するよう指示されます。電話番号を確認させられた後に「一度電話を切るが、同じ番号から電話を掛ける」と説明を受け、実在する警察署の電話番号を偽装表示した電話から着信が。これでほとんどの人が信用してしまふのだそうです。確かにここまで巧妙だと引っかけたてしまふそうですよね。その後ポリスレポート作成のためとビデオ通話へ誘導され、ビデオ内で偽造の警察バッジやIDを見せられることで更に信用させられた後、個人情報(住所・ID画像・パスポート画像)等を求められます。その後も「新事実が発覚した。あなたは逮捕されるかも」などとほめかされたたりして、心理的動揺を誘います。

正常な判断力を奪われた後、逮捕を遅らせるための保釈金として国際送金サービスを紹介した送金を要求されたり、あなたは容疑者なので監視等が必要などと理由を付けられ、送金中はビデオ通話を継続するよう指示があったりします。要は送金手配中に他人に相談できないよう監視するわけですね。他にも「捜査は極秘のため、通話を切ったり他者に相談した場合は即逮捕となる」などと脅して他人に相談できない状況を作ると同時に、頼れるのは警察(偽)しかないという洗脳され、判断力を鈍らせる。そして最終的にこの日本人は金銭をだまし取られたそうです。自分は犯罪に引っかからないぞと思っけていても、何があるかわかりませんよね。明日は我が身、気を付けていきましょう。あれ、この警察は私の在住州と違うな？など、おかしい点があれば要注意です。

被害に遭わないためには、まずは正しい情報を知っておく必要があります。そもそも警察や捜査機関は、口座番号を聞いたり、ビデオ通話を要求したり、「口座が犯罪やテロに利用された」「必要なお金を支払わなければ口座は凍結される」などとは絶対言いません。このような電話を受け取ったら詐欺と思い、通話を切りましょう。治安当局によれば、詐欺のターゲットはランダムなこともあれば、SNSなどで個人情報を探った上で電話をかけてくることもあるそうです。また、被害者は英語があまり得意ではない(言い返せ

ない)人が狙われる傾向にあるそうです。詐欺グループは心理的動揺を狙っているため、相手と長電話を続けることは危険です。少しでもおかしい点があれば一旦電話を切りましょう。その他の被害例は在ニューヨーク総領事館HPに載っているの一度目を通しておくとよいと思います。これからのホリデーシーズンに向けて自衛できるようにしましょう。

会議で触れたもう一つの内容が、海外在住者のメンタルヘルスについてです。令和6年6月に外務省が公表した「海外における邦人の孤独・孤立に関する実態調査(令和5年)」によると、海外で最も孤独を感じる邦人の属性は20〜29歳の単身女性で、西欧もしくは北米に在住、収入を伴う仕事なし、現地の言葉を話せない、外出の機会が少ない、相談相手がない、家計や健康の状況がよくないと言った人だそうです。孤独と孤立の相関関係は、居住年数や収入の有無、経済力や健康状態、コミュニティへの帰属感、アクティビティへの参加、そして言語力とのこと。確かにこれらが安定しないとメンタルに支障が出るのは想像に難くありません。でもだからと言って、これらの属性に当てはまらない人は皆メンタルが健康かというと、必ずしもそうでもないようです。少し落ち込み気味だったり、強い不安などがある場合は、何かこころの病気のサインかもしれません。

改善策としては、生活にリズムをつける、自然と触れ合う、人との繋がりを重視する、自分へ感謝の気持ちを持つ、自己を肯定してほめちぎる、考えや感情を表に出す、緊張と弛緩のバランスを取る、などだそうです。外務省は特定非営利活動法人と連携して、孤独・孤立対策の支援を提供しています。

あなたのいばしょチャット相談、生きづらびっと、チャイルドラインチャット、こころのほっとチャット、BONDプロジェクトなど様々な無料サービスがありますので、身近で悩んでいるような人がいたら、このようなサービスをお勧めしてみて下さい。自分を守るのは自分だけ。心身共に安全対策をしていきましょう！
プロフィール:

JCW(Japanese Career Women)

2018年に発足した、ダラスに本拠地を置くNPO法人。ダラス、そしてアメリカ・日本・海外で働く日本人女性やワーキングマザー、学生達を応援し、ネットワークの場を提供するため、毎月様々なイベントを主催している。

メールアドレス: ajcwwomen@gmail.com
ウェブサイト: ajcw-shines.org